



SSH 編

わたし、アナタ、min-na

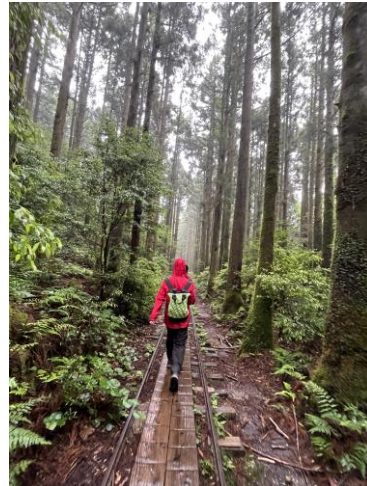
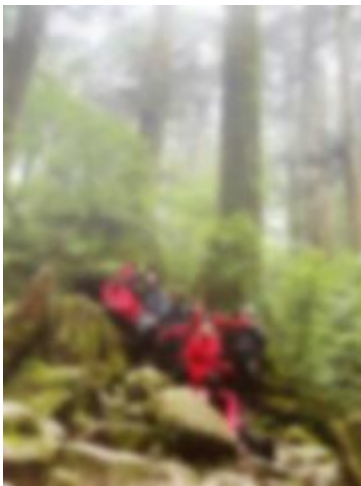
そのすがたがうれしい

No.20

2022年 7月25日 市立札幌開成中等教育学校便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>

<6年次 屋久島プロジェクト>

7月17日から19日にかけて、6年次10名が屋久島プロジェクトに参加してきました。屋久島トレッキングでは、ガイドさんの説明を受けながら約10時間のコースを歩きました。雨が降り続ける中のトレッキングになりましたが、様々な種類の杉の木があり、屋久島の数千年の歴史を肌で感じることができました。屋久杉の環境は盆栽のようなもので、雨や風で自然と枝が剪定されて杉に栄養が行き渡るようになっているという話が印象的でした。屋久島の環境を実感しながら学ぶことができ、とても貴重な体験となりました。



(参加生徒コメント)

トレッキングでは身近にはない壮大な自然を体験できました。かつて集落があり、更地になった場所や、過度な伐採があった場所にも植林により多種の植物が見られ、自然の再生力の強さを体感しました。また、ガイドの方に見られる植物を教えていただき、高度によって生息する植物が変わっていく自然の垂直分布も確認できました。1日を通して、世界遺産としての屋久島の植生の希少さが感じられました。当日は雨も強く、思っていた以上に疲れました。でも、経験できたことの貴重さと達成感の大きさは他の場所では味わえないものだと思います。(6年次)

<地学野外観察 in 三笠・夕張>

7月19日に第2回地学野外巡検が三笠市、夕張市で行われました。6年次3名、5年次7名、4年次9名、3年生5名が参加しました。夕張市では、石炭の大露頭を観察するとともに、石炭の元となる植物の化石について観察しました。三笠市では、野外博物館の三笠層を観察しその地層構造の成り立ちや、地層の時代背景について観察を通して深く考えることができました。

以下、野外観察に参加した生徒の声です。

・今回の研修を通し、大自然の中で学ぶ楽しさや実際に実物を目の当たりにすることによる様々な気付きを見つけることが出来ました！また、石炭博物館や三笠野外博物館を訪れ、実際に石炭の質感や地質の様子を観察しながら、様々な知識を身につけることが出来たので、今後の学習に活かしていきたいと思います。(3年生)



・自分の手で実際に岩石を割って化石を取り出したり、探したりすることで、北海道の地質をより楽しく知ることができてよかったです。それぞれの地層がなぜできたのかを考えながら見ることでより深い学びになりました。(3年生)

・授業で聞いたことのある言葉や資料集で知ったものを実物で見ると、今まで石に対して疑問を抱けなかったが、「なぜ石が黒っぽくなってそれが化石なのか」などの新しい発見が多くあった。また、札幌の野外観察に続いて参加したが、化石を見つけるのに岩石を割った時に、この岩石は砂岩か泥岩かなどの札幌で学んだことを活かして観察をすることができた。また、それに加えて新しく植物化石を知ることができたので、点だった知識が線で繋がってさらに大きく発展した学びをすることができた。石炭が1メートルできるのに17倍の量の生物の遺骸が必要だと言うことに驚いた。現代の資源が形成されるまでかなりの月日がかかっていることを体感することができた。(6年次)

＜生物野外観察 茨戸川とんぼの学校整備＞

6月29日第1回生物野外観察が茨戸川にて行われました。「NPO法人カラカネイトンボを守る会」様主催のもと、茨戸川湖畔にあるビオトープ「とんぼの学校」を訪れ、水質調査や生物調査、カヌーに乗りながらの川辺の観察を行いました。本校の4・5年生だけでなく他校の高校生や一般の参加もあり、交流の場ともなりました。水質調査では学校で学習した富栄養化やBOD(生物化学的酸素要求量)などの単語が飛び交う中、水質調査をし、自分たちの地域の水質について学びました。生物調査では、初めて胴付き長靴を身につける生徒も多い中、興奮気味に川の中に入り、エビやヤゴなどの生物を捕まえました。茨戸川の環境にどのような生物が生息しているのか身をもって学びました。カヌーに乗りながらの川辺の観察では、普段とは違う視点から川辺を観察し、草木の生え方や地形などについて、新たな発見を得ることができました。



＜先端科学特論 酪農学園大学実習＞

7月19日に、4年生25名が酪農学園大学の金子正美教授と小野貴司さん、シン技術コンサルの齋藤健一さんによる「環境・農業分野におけるRS/GIS/GPS技術の応用」という講義およびドローン飛行実習に参加しました。講義で金子教授には、GIS(地理情報システム、Geographic Information System)に関する基礎知識やPCを用いた3D地図の演習をお話いただきました。また、齋藤さんからは企業におけるドローンの活用事例の紹介がありました。災害で人が立ち入ることができないような場所の情報をドローンから入手し、その情報をもとに地図を作成して自治体に復旧対策に活用してもらっているなどのお話をいただき、生徒たちは実生活で役立っていることを実感することができました。後半、生徒自身がドローンを実際に飛行させる体験を行いました。最初は悪戦苦闘していましたが、だんだん操縦にも慣れ、ドローンに搭載されているカメラで写真撮影を行うなど生徒はみんな大興奮でした。最後に、ドローンを使って集合写真を撮影し、実習を終了しました。

